

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地  
管理機関名 島根県教育委員会  
代表者名 教育長 野津 建二

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立松江東高等学校  
学校長名 田中 正樹  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 「中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成」

4 研究開発概要

「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力（キャリア形成力）」、「地域共創力（価値創造力）」、「多文化協働力」を伸ばして Society5.0 を地域から分厚く支える人材である「地域共創人」の育成には、確かな学力に加え、さらなる経験、さらなる探究心、さらなる創造力が必要であり、そのために次の6つの研究開発を行う。

- |   |
|---|
| I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project） |
| II 文理融合型の教育を目指す3年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究         |
| III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究      |
| IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究                          |
| V 持続可能な学校魅力化事業研究                                |
| VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究            |

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない  
・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
能海 広明	松江市・副市長	
森 朋子	学校法人桐蔭横浜大学・副学長	
大島 正也	(有) お茶の三幸園代表取締役	
上田 泰子	(株) アテナ主席研究員	
岩本 悠	地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
東雲会(松江東高等学校同窓会)	物部 伸吾
松江東高等学校	田中 正樹
松江東高校PTA	大坂 慎也
一般財団法人嵩の嶺会	宮脇 健
国立大学法人島根大学	服部 泰直
松江市役所	上定 昭仁
松江商工会議所	田辺 長右衛門
島根県中小企業家同友会	野津 積
島根県教育庁	野津 建二

8 カリキュラム開発等専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	中村 怜詞	島根大学教職大学院 ・准教授	都度依頼し謝礼支払い
	丸山 実子	島根大学地域未来共 創本部・准教授	都度依頼し謝礼支払い
海外交流アドバイザー			
地域協働学習実施支援員	大野 公寛	島根大学教育学研究 科・講師	都度依頼し謝礼支払い
	松尾 奈美	島根大学教職大学院 ・講師	都度依頼し謝礼支払い

9 管理機関の取組・支援実績

ア 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				1回								1回
コンソーシアム 構築・運営支援												

探究学習推進	担当者設定 研修①		ミニ研修①			ミニ研修②				ミニ研修③	研修②③ 発表会	
探究指導主事の伴走												
コーディネーター研修		研修①	研修②③		研修④			研修⑤⑥		研修⑦		
高校魅力化評価システムによる調査・検証	活用研修①		調査	フィードバック	活用研修②		共有 活用事例					
各校の検証、県担当者の伴走												
人員配置												配置決定
予算要求												

イ 実績の説明

①運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の実施				1回								1回
授業への参加				1回				1回				1回
成果発表会への参加・助言									1回			
事業の広報									1回	1回		

②体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	4箇所先の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県1/2）
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修3回、希望者3回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンラインでの実施）。その他、年間を通じて探究学習の推進に係る助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。

高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。結果を基に校内研修を実施している学校の事例発表を含めた、グランドデザイン実現に向けた PDCA 構築のための教職員研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭を R 3 年度は 15 名配置、R 4 年度は 3 名増員。さらに、R 3 年度は高大連携を推進する職員を 3 名配置。

### ③事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
- ・学校と地域が協働して取り組む PBL 型研修の実施による、各コンソーシアムの主体的取組への推進支援
- ・令和 3 年度末にすべての高校でコンソーシアムが構築。令和 4 年度からは学校運営協議会制度を導入し、一体的に運用することで、法的権限を持った組織として機能強化
- ・すべての教職員が活用できるよう ICT 環境の整備と研修を実施
- ・探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びについての質の向上研修の継続
- ・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続、知見を共有
- ・探究学習や教育課程開発を推進する教職員や教育魅力化コーディネーターの配置、養成・確保・育成
- ・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進。「高校魅力化評価システム」等を活用した PDCA サイクルの構築と活用研修の実施

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①「総合的な探究の時間(1年生)」における探究学習		2回	3回	3回		3回	2回	3回	3回	3回	3回	2回
②「総合的な探究の時間(2年生)」における探究学習	1回	2回	3回	2回	1回	4回	4回	4回	4回	1回	2回	3回
③学校設定科目「データサイエンス」における学習	4回	8回	4回	4回	2回	6回	8回	6回	4回	6回	4回	2回
④学校設定科目「プログラミング基礎」における学習	7回	5回	7回	3回	2回	8回	7回	5回	6回	2回		
⑤学校設定科目「EAST 地域探究」における探究学習	5回	4回	4回	4回	5回	5回						
⑥学校設定科目「EAST 国際交流基礎」における学習	4回	8回	4回	4回	2回	6回	8回	6回	4回	6回	4回	2回
⑦学校設定科目「EAST 国際交流」における学習	8回	8回	9回	7回	2回	8回	12回	10回	8回	2回		

⑧「主体的・対話的で深い学び」にかかる研究			3回			1回	2回			2回	
⑨東高カフェ WG 及び東高カフェの実施	1回			2回		1回	1回	1回		1回	1回

## (2) 実績の説明

### ①「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習

本年度は一年次・二年次の成果と課題を踏まえ各単元のねらいを明確にして『松江東高校の魅力探究』『学問の魅力探究』『松江市の魅力探究（MAT SUE探究）』を実施した。また、本校2年生が発表を行った「MAT SUE探究成果発表会」に参加し、生徒たちは探究活動のあり方を具体的に学ぶことができた。過去2年間のカリキュラム開発の成果として計画された年間活動計画に基づきつつ、生徒や教職員の実情に合わせながら、新たな教材開発を工夫し探究学習を進めた。カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員により、毎時間教職員に対する振り返りや助言を得ながら、探究活動の基盤となる力の育成を行った。

### ②「総合的な探究の時間（2年生）」における探究学習

松江市に所属する企業や団体と一緒に「地域社会が抱えている課題について考え、解決策を提案する」という活動を行った。それを通して、自らより良い社会を創造していくことができる資質・能力を育成するとともに、地域の「ひと・もの・こと」に興味・関心をもつことができるよう促した。各クラスで4～5人のチームを作り（合計46チーム）、松江市にある31企業・団体と協働して探究活動を行った。カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員により、毎時間教職員に対する振り返りや助言を得ながら、より質の高い探究活動をめざした。

### ③学校設定科目「データサイエンス」における学習

前半はデータ処理や分析、統計学の基礎について学んだ。また、島根大学の先生による講義を受け、データ分析についての理解を深めた。後半は、オリンピック選手のデータを題材に「PPDACサイクル」に沿った分析を実施し、成果をまとめて発表した。その後、個人で興味関心のある地域課題等のテーマを設定し、データの取得・分析、結果の発表を行った。年間を通して、コンソーシアムメンバーである島根大学の教員からの助言を得た。

### ④学校設定科目「EASTプログラミング基礎」における学習

はじめにプログラミング言語「Python」による簡単な計算・表示やデータソーティングなどの簡単なアルゴリズムについて学習し、それをプログラムに実装し動作を確認した。さらに様々なアルゴリズムについて学び、実装しながらプログラミングへの理解を深めた。自らの地域探究プロジェクトと関係づけてプログラミングを行いアプリケーションを作る生徒もいた。

### ⑤学校設定科目「EAST地域探究」における探究学習

選択者10名が「地域」をテーマとして、それぞれの興味関心に基づいたテーマで地域探究の活動を行った。生徒は個々で、または複数人でテーマを設定するなど、これまでの2年間で学んだ「探究活動」をより自由度を上げて取り組んだ。設定したテーマに関係する地域企業等にアポイントメントを取り、企画の立ち上げの段階から様々な取り組みを協働して行った。担当した教員は、アドバイザーとしてプロジェクトの進行について助言したり、行き詰まったりしたときの伴走者として関わった。

それぞれが行ったプロジェクトは、7月27日の本校のオープンスクールで中学生を対象として発表したほか、7月29日に開催された「山陰探究サミット」（主催 島根県立出雲高等学校）、本校学園祭での発表を行った。

⑥学校設定科目「EAST 国際交流基礎」における学習

2年生の選択科目として開講した。島根大学の留学生、島根県の国際交流員を招いて相互の国や文化について伝え合い、交流を行った。年間を通じてペアやグループの対話、ディスカッション、および発表活動等をおこない、国際交流において基盤となるスピーキング力、プレゼンテーション力等を高めることとした。

⑦学校設定科目「EAST 国際交流」における学習

ペアやグループの対話やディスカッション、および発表活動等を通して、国際交流において基盤となるスピーキング力やプレゼンテーション力を高めた。あわせて洋画、洋楽、海外文献等を活用しての異文化理解学習も行った。

⑧「主体的・対話的で深い学び」にかかる研究

研究授業を兼ねた授業公開や教員研修を8回実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により先進校視察等は行えなかった。

⑨東高カフェの実施

地域の多様な大人と交流する場「東高カフェ」を生徒たち自身が企画・運営を行うための「東高カフェWG」を進めた。コンソーシアムメンバーの「松江市役所」「東雲会」の協力を得て、年2回、普段接することのない大人と交流する機会を設け、広報等も含めて実施した。参加した東高生についても、自主的に参加することで自身の将来の選択の幅を広げたり、将来の姿をより具体的にイメージしたりすることができた。

⑩成果の普及について

HPや学校広報誌等を活用し、本校の学びについて発信を行った。本年度は、複数の生徒が地域フォーラム等でパネリストとして参加し本校の地域と協働した学びについて発表を行ったり、地域の団体等が本校との学びを発信してくださったりし、成果の普及についても地域と協働しながら行うことができた。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- ・「総合的な探究の時間」を始めとした本事業の取組が、生徒の「地域共創」への意欲や態度を育てることにつながった。特に目標設定項目1のa・b・cに関する回答は、非常に高い評価であった。
- ・目標設定項目1のdに関しては年ごとに微増しているが、目標値を達成することができなかった。生徒への聞き取り調査では、「一度外部から島根県を見たい」や「総合的な探究の時間で協働した企業の方からも、一度は県外で生活する経験をするをを推奨された」など、前向きに自分のライフデザインを考えている結果だと考察できる。今後は生徒が大学で地域とつながりながらどのような生活や研究を行うのかを実感できるような機会の確保も含めた高大連携プログラムを検討していく必要がある。
- ・目標設定2の各項目についてはオンライン等を活用しながら目標を達成できた。
- ・目標設定3の各項目については目標を上回る実施ができた。コンソーシアムと協働した活動が充実した結果と考えられる。

<添付資料> 目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 令和3年度以降の持続可能なコンソーシアムの構築について

- ・管理機関により高大連携推進員が配置された「拠点校」として、島根大学や島根県立大学と連携しながら大学生も含めた「地域共創」のタネを育てる「システム」の構築をめざす。
- ・「コンソーシアム組織全体で『地域共創人』を育てる」ために、既存のコンソーシアム組織の構成メンバーを再検討し、学校運営協議会組織とも関連付けながら、より実効性のある活動ができる組織にする。
- ・引き続き、コーディネーター人材の確保等にむけて、財政面も含めてチャレンジをしていく。

### (2) 指導上の課題

- ・授業の中だけでなく、主体的に自身の活動として地域貢献のためのプロジェクトをすすめる生徒たちが出てきた。こういった「意志ある学び」を支える組織的な対応ができる校内組織の体制づくりをすすめていく。
- ・教職員の意識調査の結果から、学校のグランドデザインについて全教職員の理解をさらに深めていく必要がある。研修機会の確保や校内向けの発行物等を活用しながらベクトルをそろえ、目的が共有された授業に反映させていくことをめざす。
- ・この事業を通して地域との協働的な学びの価値についての学校全体の理解が深まったが、教科の学習との好循環を生み出すカリキュラム開発について、引き続き検討を進めていく必要がある。
- ・今後の自走にむけて、本校だけにとどまらず幼稚園から大学生までをつなげ、地域全体で「地域共創人」を育てていく「地域共創人育成 Project アドバンスト」を検討・推進していく。

### 【担当者】

担当課	島根県教育委員会	TEL	0852-22-6165
氏名	長谷川 勇紀	FAX	0852-22-6026
職名	教育魅力化推進員	e-mail	hasegawa-yuki@pref.shimane.lg.jp